

都立駒込病院医療情報システム

東京都衛生局駒込病院庶務課情報処理担当 森野明義

a). システム開発の経緯

1. システム導入の背景 駒込病院の問題点として、「専門分化して各種能性連絡調整が悪く、計画的な業務管理が行なわれてない。即時処理を要する事の頻度が多く、連絡先が多岐にわたり、情報の混亂化強化を引き起こし、各部門の本来業務を圧迫している。(547, 3 駒込病院電子計算機導入基本問題調査答申)」と指摘され、550, 4 に開設される駒込病院にコンピュータ・システムの導入が決定された。
2. 病院概要 駒込病院は、がんと感染症を中心とした高度な医療サービスを行なう総合病院として新築され、今後の運営規模は、がん600床、感染症300床、外来1000人である。
3. システム導入の目的 答申が指摘した問題点を以下に示す。
 - 1). 患者転院と待ち時間の短縮等 患者サービスの向上
 - 2). 連絡調整等による単純事務作業の軽減 管理条件の改善
 - 3). 情報伝達のスピードアップと情報の精緻化等 医療の質的向上
 - 4). 病床管理、経営管理等、病院管理の近代化、
 - 5). 他医療機関との機能分担、地域医療情報等公立病院との役割分化。
4. システム運用前提条件 駒込運営方針から主なもの列挙する。
 - 1). 手約制の原則（秘密、再説）

2) 病歴, 病床, X-ray 等の集中管理方式

3) 情報の発生源入力と医療従事者による端末操作

5. システムの特徴

a) 専門分化した各種機能向の情報伝達の連続性として一貫性指向

2) 普段の発生源入力画面とオンライン・オフライン

3) 専門的知識を必要としない入力方式として CRT を採用

4) システムの高度専門性の確実化のためデーターベース構成

5) 施設による診療患者台帳番号カードを交付し、入力操作の簡便化

b) システムが理化力化している業務の範囲

1. 患者登録(受診料と使用医院・管理)

2. 手約(診療管理)と病床(ルート)管理

3. 名字オーダーと薬品管理

4. 検査オーダーと検査成績管理

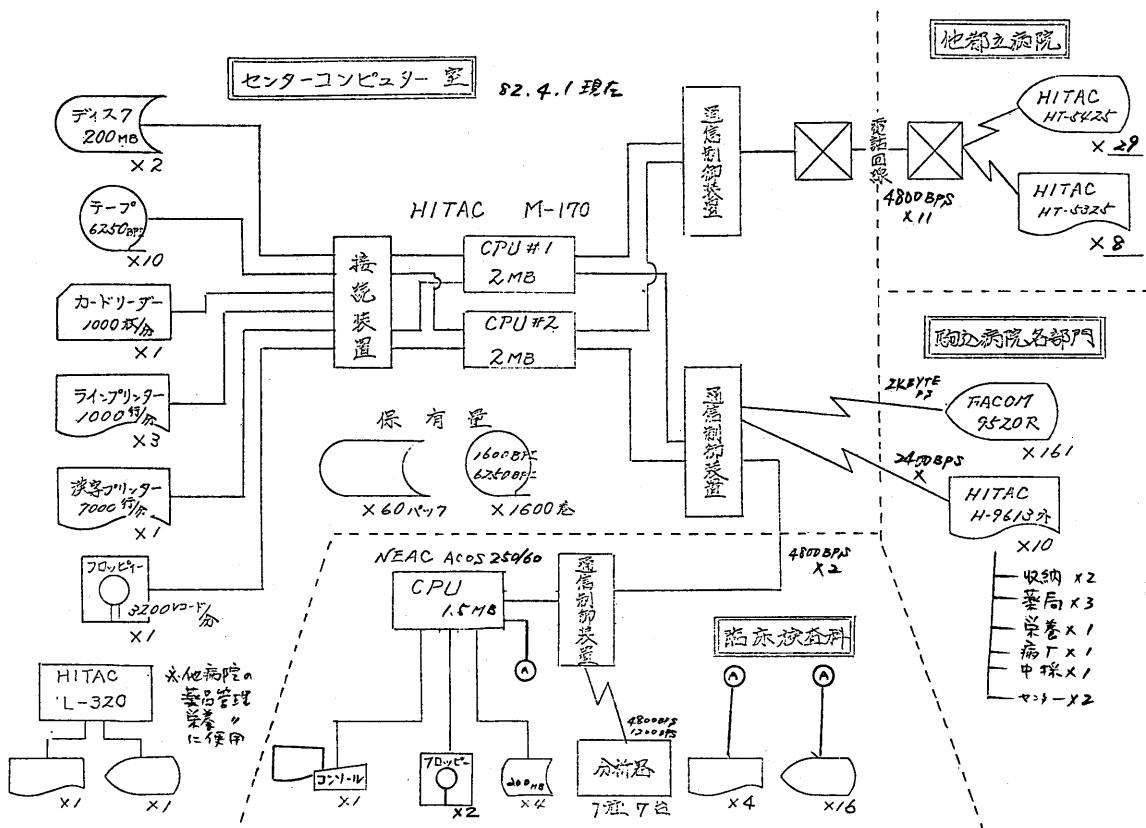
5. 給食オーダーと食品管理

6. 疾病情報、医療統計、病床運営等情報管理

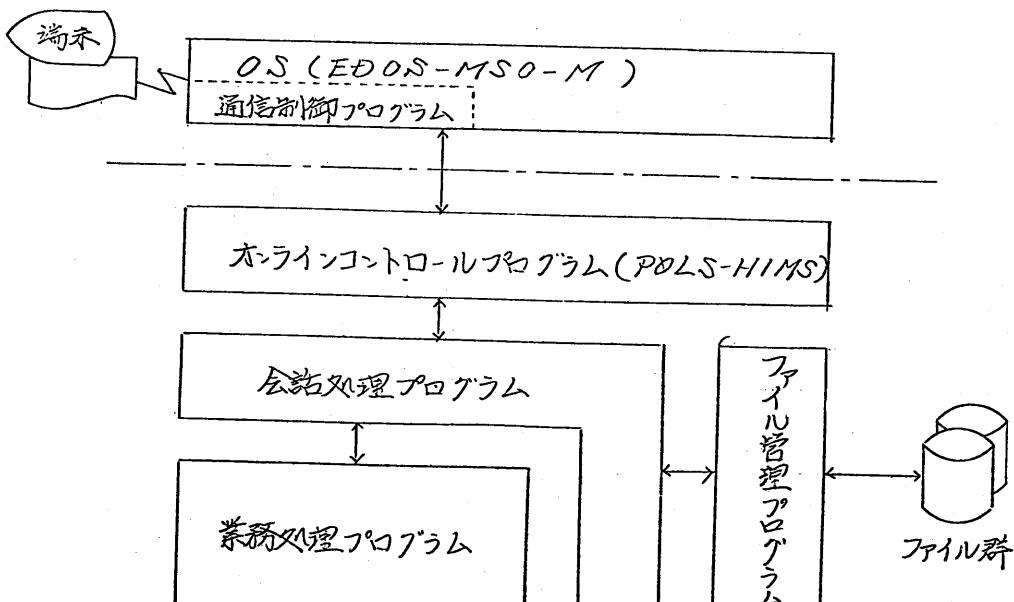
7. 会計情報管理(外来、入院、レント、各種経営分析等)

c). 主な機器構成

1) ハード構成



2) ハード構成図



d) ギーラーベース・待合室

* 現在、当システムでは、ギーラーベースとしてのフライル利用
方式はとってない。

e) コンピュータの接続方法

* c). 主な機器構成部品のように「ギーラーフレックス構成」である。

f) 現在の問題点

1. 問題認識の視察

当院のコンピュータと他の都立病院と共同計
画により、より運用開始を機に、組織の改変を行った。

システムの運行とシステムの設計は管理部門に移管し、都立病院には、院
内の改善と運用指導のため「情報システム担当主任」を設置した。

以下の問題認識は「情報システム担当主任」の立場からの意見である。

2. 現状との改善策

1). 優先時間 医師、看護部門からはいつもも入力不可状態が必
要である。又 医事会計、統計資料等からも、検査しない時間
帯の情報のアラートが人肉で対応が必要である。

2). システム対象外項目 システムや基入力等での業務でも、
人間が対応する項目があつた為、入力者から起碼の画一性がなく
繁雑である。特に新人の取扱が大変である。例えば、検査オーダー²、
尿、一般検査、血沈検査は人間手で入力される。

3). システムの重心不足 受付オーダーと、処理段階等。
と複数のアラート、患者特徴による副作用警告アラート等は、
子供、精神障害者等。

4). データーバンクと検索レスポンス。J50.10以来、データーバンクは、大量であるが、利用方法も含め、検索システムが確立している。都度、検索用ソフトを作成し、専門用語で、大量のデータから抽出する検索を行っている。このため、学会等医師が検索時に必要なデータを作成できる。しかし、がん研究会で発足し、7年目に存続現在この方面でデータは増大している。

9) 新規開発の要望 (項目を列挙するにとどめる)

- X-ドオーナー (ex.)
- 注射オーナー
- 入院予約
- サペスクジニアール
- 看護スケジュール
- 輸血データー
- 病理情報
- 物品管理
- 医療情報検索処理